

- ◇日時 2022年11月1日(火) 19時~20時30分
- ◇方法 対面式とビデオ会議システム Zoom を使ったオンライン形式を併用したハイブリッド
- ◇会場 ESD・SDGs センター多目的ホール
- ◇参加者 対面 12名、オンライン 26名 計 38名

「ESDを通して知った ~学びの楽しさ 人とのつながり~」

平群町立平群中学校 井阪愛子氏

○教職大学院で再び大学で学ぶようになって、「学ぶ楽しさ」を知った。

1. ESD との出会い

大学院入学オリエンテーションで、

「ESD の理論と実践」を履修するとよいでしょう・・・小さな一文から  
中澤研究室を開ける勇氣  
新しい教育をどうしても学びたいという思い  
家族の賛成、同僚の応援

2. 大学院生だからこそできること

自分のやりたいことに挑戦 学生だからこそできる

- ・勤務校の梅の木・・・立派な梅の実ができる 梅干しをつくろう  
町の食生活改善推進委員会の方に協力を願う 自分から声をかけるとやってくれるんだ!  
論文「ESD との教材としてのウメ・梅干し」(岩本廣美氏) アポを取って会う  
一つのメールから、いろいろな人につながっていった
- ・調子に乗って娘の学校でも・・・  
「どうせ梅の実を何もしないんだったら、いっしょに梅干し作りませんか？」



学びの楽しさ 人とのつながり

授業は教師も楽しいものでありたい

既存のコンテンツ知識を伝えるだけが授業ではない。

→ 知識を使って探求することが大事

3. 評価について

大学院では学習評価を学んでいる

探究する学習とは → パフォーマンス課題(確かな学力が育成され、深い学びにつながる)

日常生活に近い文脈・状況を設定している ESD そのものではないのか

パフォーマンス課題の評価にはルーブリックを使うことが一般的だが、ESD とルーブリックの  
親和性は?

「ESD は教育の目的であって、目標ではない」

目的は評価できない

#### 4. 価値観について

一人一人のイメージが違う（目的は方向性とも言える？）→ 価値観の違い 文化の違い

価値観の違いはあって当然 価値観の強要はしない

感性やソマティックマーカーの高まりを評価する ループリックの限界

<例>和服の文化は受け継がなければならないのですか？

学習前 YES 1組 25人 2組 15人 後から分析したらその理由は抽象的

NO の理由の方が具体的（自分事）

「和服の価値を調べてみよう」 和服によさは分かったが、私は受け継ごうとは思いません。

「私は～だから継承したいなあって思うんです。」

「じゃあ、先生、まず着てみてください！」

～ には

それは外国の人にも通用するものなのか

生徒にも着物を着てもらってみる

価値は生徒自らで気づいて自分自身のものにする

・・・長期的な計画



#### 5. 私の ESD が目指すものとは？

ESD を通して、自分自身の身近な大切なことに気づき、そこから視野や考えを広げていく

(質疑)

・井阪先生が思われる ESD と家庭科の親和性は？

「よりよい生活」とは・・・一人一人違うことを考えるところ

・ESD と家庭科をつなごうとするのではなく、家庭科をしながら自然と ESD になっている

・人とつながる秘訣は？ どんどんいろんな人に声をかけていくことは大事